

日本ユネスコ協会連盟
東日本大震災
教育復興支援レポート
～絆の一年～



公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階
電話:03-5424-1121(代表) FAX:03-5424-1126 メール:nfuaj@unesco.or.jp



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

～絆の一年～

東日本大震災で被災された皆さまには改めて、心よりお見舞い申し上げます。
日本ユネスコ協会連盟は、2011年3月11日の東日本大震災により、多くの学校が被災し、子どもたちの教育環境が危機に陥ったことを受け、被災地の教育復興に向けて全力で支援活動に取り組むことを決定しました。

震災直後、教育環境の被害の全貌は明らかではありませんでしたが、これまでの海外支援の経験と現地の声をもとに、私たちは短期、中期、長期の3段階で支援を行う方針を立てました。短期支援は、津波被災校及び原発退避校に対する物資支援です。当時、国・県・市及び全国から被災校には支援が集中しましたが、学校のニーズと支援物資との間にズレが生じていました。そこで、各学校に対し、必要なものを必要に応じて要請していただき、それに即応するという支援を1校150万円の範囲内で行いました。

中期支援は、教育委員会や地域からの要請と企業からの協力申し出等を調整し、コミュニティの絆を再生するための物資支援を行いました。

長期支援では、震災により遺児・孤児および震災にて経済的困難になった世帯のお子さま方を中心とした給付奨学金の支援を行うことにしました。

こうした方針のもと、私たちは多くの企業・団体・個人の皆様の善意の募金に支えられ、支援活動を実施することが出来ました。この間ご協力頂きましたすべての皆様方に心からの感謝と御礼の気持ちを込めて、2011年度の活動報告をさせていただきます。



公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟
会長 松田昌士



目次

ユネスコの年間支援活動P4

学校への支援P6

町のコミュニティ再生への支援P8

文化・お祭りへの支援P10

心のケア支援P12

震災遺児孤児への支援P14

就学が困難な子どもへの支援P16

心と支援をつなぐP18

被災地からのありがとうP18

日本から 世界から繋がる絆P19

企業・団体からのご支援P20

会計報告P22

今後の支援P23

一日でも早く、 新学期を 始めたい。



「いつ新学期を始められるのか…」

宮城県気仙沼市教育委員会の白幡勝美教育長は心の中で呟いた。
教室のほとんどが避難所として使われる中、
どのようにして学校を再開していくかが一番の課題だった。

7,084校

東日本大震災により何らかの被害を受けた学校(幼・小・中・高など)は、7,084校。
その中でも特に津波被災校や原発避難校では、校舎や校庭の被害、教材や備品の不足などにより、
4月になっても新学期を迎えられない学校が相次ぎました。

被災地からの声

子どもが安心して学べる学校生活を取り戻したい

ユネスコの活動

被災した学校への教育支援活動

私たちはまず、支援対象となる津波被災校と原発避難校をリストアップすることから始めました。
情報が混乱する中、地元の教育委員会やユネスコ協会と連絡を取り合いながらの、ゼロからの出発でした。

被災した学校の声に耳を傾けて。

支援の対象となる学校と連絡をとるのは大変でした。震災直後は電話もなかなか通じない中、何とか学校の先生方と連絡を取り、今、学校では何が必要なのかをうかがいました。そして①各学校のニーズに即して支援する。②支援品に条件を付けない。③被災地の経済復興のためになるべく地元業者から調達を図る。という3つの具体的方針を固めました。そして、募金をされた方々の気持ちが最大限被災地に届くよう、膨大な作業に取り組みました。



学校が元通りになるために、今、必要なものを。

被災から間もない4月～5月は、学習ノートや体育着、校舎の玄関マットや校庭の土など、学校を元通りにするために必要な物資への支援要請が大部分を占めました。教育委員会の要請により、仮設住宅や避難所に住む子どものためにスクールバスも提供しました。学校運営が軌道に乗りはじめた6月になると、被災した家庭に負担を求めることが難しい費用、たとえば遠足や修学旅行の費用への支援要請が増えていきました。



学校ごとのニーズに、一つひとつ応えていく。

津波被災校や運動場に仮設住宅が建設された学校では、狭いスペースで遊べる竹馬や一輪車、室内で遊べる遊具などの支援要請が多く寄せられました。一方、原発事故による放射線の影響が心配される学校からは、線量計や空気清浄機などの支援要請がありました。学校ごとに抱えている問題は様々で、それぞれのニーズに応じて柔軟に支援活動を展開しました。



支援実績 (2012年3月末)

幼・少・中・高等学校144校、2教育委員会 支援額：1億8802万円

岩手県 岩泉町:1校、宮古市:5校、山田町:2校、大槌町:6校、釜石市:1教育委員会、大船渡市:6校、陸前高田市:6校・1教育委員会
宮城県 気仙沼市:10校、南三陸町:4校、石巻市:27校、東松島市:7校、七ヶ浜町:3校、多賀城市:2校、仙台市:5校、名取市:5校、岩沼市:2校、亶理町:5校、山元町:3校
福島県 南相馬市:22校、飯館村:1校、川俣町:2校、双葉町:1校、大熊町:6校、いわき市:11校、鏡石町:1校、須賀川市:1校
この他に特別プログラムにて、気仙沼市の10校、および亶理町教育委員会に学校備品などの支援を行いました。
これを含めると、154校・3教育委員会に支援を行いました。

支援をいただいた主な企業・団体 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 役員募金、花王株式会社、株式会社紀伊國屋、株式会社ジェーシービー・インターナショナル、真如苑、日本石鹸洗剤工業会、日本テトラパック株式会社、日本電信電話株式会社、ベネッセ募金・ベネッセグループ、三菱重工株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行

図書館は、 まちの復興の 中心になる



「今後まち全体が復興していくなかで、
町民一人ひとりが新しいまちのビジョンを持つことが必要です。
その情報源として図書館は重要なのです」
町中が破壊された大槌で、佐々木健図書館長は熱く語った。

53,000冊 大槌町図書館にあった約5万3000冊の蔵書は、津波によってそのほとんどが流されました。
被災地では移動図書館、学童保育所など、社会教育施設の復興も求められています。

被災地からの声

コミュニティ再生のために社会教育分野の支援をしてほしい

ユネスコの活動

移動図書館車、学童保育所、相撲場への支援

私たちは、教育委員会のニーズと企業からの協力申し出とを調整する中で、被災地のコミュニティを再生させるためには、社会教育分野の支援が大切であることに気づきました。そこで双方の声に耳を傾けながら、より広い視点での教育支援について一つひとつ検討していきました。

移動図書館

抽選で入居の決まる仮設住宅では、お互い見知らぬ人同士が新しいコミュニティの中で共に生活することになります。そのような状況の中で、読書が人々の心の支えになることを願い、私たちは、岩手県大槌町、釜石市、洋野町、宮城県気仙沼市の要望に応え、5台の移動図書館車を寄贈しました。



学童保育所

働く親をもつ小学生が、放課後を過ごす学童保育所からも支援要請がありました。釜石市に仮設学童保育所を1棟支援したほか、気仙沼市、東松島市、女川町の学童保育には遊具保管庫や備品を支援しました。



相撲場

昔から相撲が盛んな岩手県山田町の土俵は大津波で全壊。町民からは毎年8月に開かれる「子ども相撲」のためにも相撲場を再建してほしい、という声が寄せられていました。これを受けて、UNESCOスポーツ・チャンピオンの横綱白鵬関が力士会に呼びかけ、全力士が募金に協力しました。相撲場は2012年4月末に完成。8月に土俵開きが行われます。



支援実績

移動図書館車：5台（岩手県大槌町、釜石市、洋野町、宮城県気仙沼市）
学童保育所：1箇所（岩手県釜石市）
学童保育所への物資支援：3箇所（宮城県気仙沼市、東松島市、女川町）
相撲場：1箇所（岩手県山田町）

[支援をいただいた企業・団体] 花王株式会社、トレンドマイクロ株式会社、株式会社ニッセン、日本テトラバック株式会社、力士会

復活させる。 神楽を ふるさとの証



足りない道具をかき集め、
雄勝法印神楽は、
町の人びとの強い要望に応え、
避難所で復興市で舞を続ける。

東北地方沿岸部は、日本でも有数の無形文化の宝庫といわれ、被害の大きかった地域にも、数多くの伝統芸能があります。人々の気持ちをつなぐ故郷の証である伝統芸能の復活は、コミュニティ再生への大きな力となります。

被災地からの声

震災で危機に瀕する、東北のお祭り・文化を救ってほしい

ユネスコの活動

東北の伝統文化への支援活動

日本ユネスコ協会連盟ではかねてより、失われつつある日本の自然・文化を未来へ伝える「未来遺産運動」を進めてきました。ところが、今回の津波で東北沿岸の豊かな地域芸能の多くが存亡の危機に瀕しました。私たちは震災で被害を受けた郷土芸能の状況を調査し、教育支援に続いて文化支援も行うことを決めました。

雄勝法印神楽

町の9割が被災した宮城県石巻市旧雄勝町。この地に伝わるのが、国の重要無形民俗文化財に指定されている「雄勝法印神楽」です。津波で神楽に使うお面と衣装がすべて流された中でも、保存会は何とか道具を調達して活動を再開しようとしていました。私たちは神楽面や千早、神楽幕、音響設備などを支援。また、雄勝小学校「子ども神楽倶楽部」にも千早や衣装を支援しました。



櫻舞太鼓

「櫻舞太鼓」は、若者が力強い鼓動を響かせる勇壮な釜石の地域芸能です。今回の震災では、所有していた太鼓がすべて流され、太鼓団の一人が犠牲になりました。太鼓団は、太鼓を瓦礫の中から取り出して、活動を再開。私たちは、短胴桶太鼓2張、締太鼓皮10枚(5張分)と、太鼓を運ぶ車輛などを支援しました。



学校での郷土芸能支援

郷土芸能を次世代に引き継いでいくために、被災地の学校の多くで郷土芸能の授業が子どもたちに行われていました。地域の芸能がいつまでも故郷の証として生き続けるよう、震災で被害を受けた学校3校に対し芸能教育用具の支援を行いました。



支援実績

雄勝法印神楽：神楽面4面の復元と衣装や備品
櫻舞太鼓：短胴桶太鼓2張、締太鼓皮10枚(5張分)、用具運搬車輛
学校芸能：学校での郷土芸能教育用具

中浜子ども神楽：長胴太鼓1張(宮城県亶理郡山元町立中浜小学校) 小々汐太鼓：桶胴太鼓2張、附締太鼓5張(宮城県気仙沼市立浦島小学校) 浦浜念仏剣舞：衣装等15着分(岩手県大船渡市立越喜来小学校)

[支援をいただいた企業] 日本テトラバック株式会社、株式会社フェリシモ 基金事務局、三菱商事株式会社

被災地の 子どもたちの 心豊かな 成長を願って



津波被災地では、たくさんの悲しみで
灰色の風景が日常となってしまいました。

「少しでも子どもたちが笑顔で夢や希望を語れる機会をつくってあげたい」
そんな思いが、地元のユネスコ協会にも広がっていきました。



被災地からの声

被災地の日常から離れて、子どもたちに笑顔の機会をつくってあげたい

ユネスコの活動

子どもたちへの心のケア支援と教員への研修会

子どもたちの心理的ストレスを軽減することを目的に、夏休みにキャンプや絵画コンテストを実施。周囲の大人たちも子どもの心をケアできるように、教員向けの研修会も実施しました。

東日本大震災ユネスコ子どもキャンプ

8月4日～6日、子どもたちの心のケア支援として、仙台ユネスコ協会が中心となり、宮城教育大学と東北大学の学生ボランティアとともに、釜石、大船渡、気仙沼、仙台の小中学生を「蔵王自然の家」に招待しました。UNESCO平和芸術家の二村英仁氏の音楽ワークショップなどを行い、2泊3日を過ごしました。



ユネスコ・震災復興研修会

震災以降、休みなく学校再開のために奮闘してきた気仙沼市の教職員を対象に、子どもたちの心のケアに関する研修会を、8月10日～11日に仙台市で開催しました。呼吸法を軸としたリラックス方法の講座や、視点を変えてものごとを見る“くるりんぱ”ワークショップなど、教員自身がリラックスできる研修会となりました。



子ども絵画コンテストや絵画ワークショップ

気仙沼ユネスコ協会は夏休みに「未来の気仙沼」を描く絵画コンテスト、釜石ユネスコ協会は冬休みに「未来の釜石」を描く絵画コンテストを開催。復興の担い手となる子どもたちの未来への希望を引き出しました。優秀作品に選ばれた子どもたちは東京ディズニーランドに招待され、しばし日常を忘れて存分に楽しみました。また釜石と大槌の学童保育では、絵本の読み聞かせ会や、自分の未来のまちを考えるワークショップなどを実施しました。



支援実績

東日本大震災ユネスコ子どもキャンプ参加者 小・中学生 54人
ユネスコ・震災復興研修会 30人
子ども絵画コンテスト参加者 152人(気仙沼市)、246人(釜石市)

[支援をいただいた企業] トレンドマイクロ株式会社、株式会社ニッセン、日本テトラパック株式会社



海で父を
失ったからこそ、
この仕事を
選んだ。



「将来は海上保安庁の特殊救助隊として、
命を助ける最前線で働きたい」
東日本大震災で父親を失った石巻市の柳井正人さん(仮名)は、
母親の元を離れて海上保安学校への進学を決めた。

1,613人 東日本大震災で、両親もしくは父母のいずれかを亡くした子どもは1,613人。(18才未満。厚生労働省調べ。2012年3月28日現在)
こうした震災遺児・孤児を守るために、いかに具体的な支援を実現できるのかは、大きな社会的課題となりました。

被災地からの声

震災の遺児・孤児へ支援の手を差し伸べてほしい

ユネスコの活動

MUFG・ユネスコ協会東日本大震災復興育英基金

- 対象者 東日本大震災発生時に災害救助法適用地域に居住しており、両親もしくは父母のいずれかが死亡・行方不明となった子どもで、2011年4月時点で小学校から高等学校に在籍していた者
- 支援金額(奨学生1人) 一時金10万円+毎月2万円(高校卒業まで)(給付)

震災の遺児・孤児のための奨学金事業

被災地の教育復興にいち早く取り組んできた私たちは、震災前から環境教育事業で協働していた三菱UFJフィナンシャル・グループと話し合い、4月末に「MUFG・ユネスコ協会東日本大震災復興育英基金」を創設することで合意しました。その中心が震災遺児・孤児を対象とした給付奨学金プログラムです。15年間で総額30億円にのぼる壮大な事業が始まりました。



1日でも早く、1人でも多くの子どものために、奨学金を届けたい。

基金創設が決まると、一日でも早く子どもたちに奨学金を届けたいとの思いから、奨学金の仕組みづくり、被災地の教育委員会との協議など、急ピッチで準備を進めました。この間、私たちと共に三菱東京UFJ銀行のCSR推進部の皆さんが夜を徹して作業に邁進しました。その結果、6月20日に奨学金の募集を開始、8月5日には子どもたちに第1回の奨学金給付を行うことができました。



現在、そして将来のために、大切に役立てたい。

奨学生の保護者からは、たくさんの感謝の言葉と共に、「この奨学金を子どもの学費や生活費に充てたい」、「高校や大学進学時の費用にしたい」といった声をいただきました。子どもの将来を見据えた使い方を含めて、家庭の事情に合わせて有効にご活用いただいています。



支援実績 (2012年3月31日付)

支援者数: 1,233人 奨学金送金額: 4億7,958万円 (2012年5月31日まで)

小学生501人、中学生349人、高校生377人、養護学校・特別支援学校6人

※奨学生の家庭状況: 母子世帯609人、父子世帯465人、父母以外が保護者159人

[支援をいただいた企業] 株式会社三菱東京UFJ銀行、三菱UFJフィナンシャル・グループ



いつか母のために
家を建てたい。
生まれ育った
この土地に。

自宅が津波で流されたとき、「小さい頃からの夢だった建築士への思いがさらに強くなった」と語る山田一郎さん(仮名)。女手ひとつで3人の子どもを育ててくれた母親のために、いつか家を建ててあげたい。震災から一年後、建築が学べる学校への進学を決めた。

73,000人 文部科学省によると、経済的な理由で就学への援助が必要な園児・児童・生徒・学生は約73,000人。震災の影響により家や仕事を失った世帯、特に若い世代の家庭では、子どもたちが学ぶ環境が深刻な状況に陥っています。

被災地からの声

経済的に就学が困難になった家庭の子どもたちに支援を

ユネスコの活動

ユネスコ協会就学支援奨学金

- 対象者 両親や保護者が健在でも津波による家屋流失、失業、そのほかの理由により、著しく経済状況が悪化した家庭の小学生及び中学生
- 対象地域 岩手県、宮城県、福島県の3県で自治体を特定して実施
- 支援金額 原則毎月2万円(3年間)(給付)

震災で苦しい状況にある世帯の子どもへの奨学金。

被災地への支援活動を進めていく中で、学校の先生や教育委員会の方々からは、今後は震災の影響による経済的な理由で、子どもを学校に通わせることが困難な家庭が出てくるだろう、という懸念の声が聞かれるようになりました。たくさんの支援の中で見落とされがちな就学危機について、私たちは「ユネスコ協会就学支援奨学金」を創設することを決定しました。



どの世帯を、給付の対象とするのか。

奨学金を必要としている子どもたちの人数に比べて、私たちが支援できる人数が極端に少ないため、奨学金の対象者は被害の大きい自治体から順に行うことに決定しました。地元教育委員会の協力を得て、事業を進めていきました。対象範囲は、小学1年生から中学3年生までですが、特に進学資金が必要な中学校3年生に配慮しました。



支援を必要としている子どもたちは、まだまだたくさんいます。

震災から1年以上経った今も、被災地の復興基本計画はなかなか決まらず、被災した家庭の経済的な理由による就学危機はますます深刻になっています。私たちはより多くの人々に支援を呼びかけようとさまざまな試みを行ってきましたが、まだまだ力及びません。今後もより多くの子どもたちに支援の手を差し伸べられるよう、継続的に活動していきます。

支援実績

支援者数1,533人、総額3億7,954万円(2012年5月31日まで)

大槌町、陸前高田市、気仙沼市、南三陸町、石巻市、仙台市

支援をいただいた主な企業・団体
オリックス米国財団、グッチ、公立学校共済組合やすらぎの宿(利用者一同)、株式会社ジェーシーピー・インターナショナル、ジョルジオ アルマーニ ジャパン株式会社、株式会社 カの源カンパニー、株式会社トランスコンテナ、トレンドマイクロ株式会社、南部化成株式会社、日本テトラパック株式会社、パナソニック共栄会、東日本旅客鉄道株式会社、ベネッセ募金・ベネッセグループ、マックスバリュ西日本株式会社、三井石油株式会社、株式会社ロッテアイス、ワールド・ビジョン・ジャパン

被災地からのありがとう。

日本ユネスコ協会連盟が支援を行った学校や子どもたちから
たくさんのお礼のメッセージをいただきました。



学校支援先から

子どもたちは、どんな状況でも幼稚園に来ると、友達とにぎやかに声を張り上げ遊びだします。そんな様子に私たち保育士も力が生まれ、一緒に楽しいことを見つけて日々を過ごしています。この度は、沢山のご支援をいただき感謝申し上げます。

(岩手県宮古市の幼稚園の園長先生)



子どもたちは会ったこともないみなさま一人一人の顔を想像しながら、「ありがとうございます」と感謝しています。こうしてみなさまの温かいお心をいただきながら、私たちは目に見えない糸でつながっているんだと思います。本当にありがとうございました。

(福島県いわき市の小学校の校長先生)

奨学生の家庭から

震災後は、考えられないほど、大きく環境が変わってしまい、大人も子どもも、我慢、我慢が続いています。先のことを考えると、日に日に不安が大きくなりますが、ユネスコさんからの奨学金は本当にありがたいものでした。

(中学1年生の子どもをもつお母さん)



奨学金の話ができた時は本当にありがたく思いました。あの日から母親への負担も多くなり、辛そうに見えたので、本当に今回のこの支援には感謝しています。これからも負けずに勉強に部活、将来の夢を叶えるために頑張りたいと思いますので、応援よろしくお願いします。

(宮城県石巻市の中学3年生)

文化支援先から

神楽クラブはご支援いただいた衣装に身を包み、『初矢』の舞を披露することができました。保護者も地域の方々も涙なしでは見られません。踊る子どもたちも、練習時間が非常に少ない中で、一生懸命踊っておりました。本当に本当にありがとうございました。

(宮城県石巻市の小学校の先生)



心のケア支援から

この旅行は、とっても楽しかったです。みんなずっと一緒にいられることだけで夢のようでした。来年もこの絵画展があったらいいのに・・・と思いました。家に帰ったあと、喜ばしいのに、号泣してしまいました。お父さん、お母さん、弟に話を聞かせながら、ずっと泣いてしまいました。本当に楽しかったです。ありがとうございました。

(岩手県の釜石市の小学5年生)

※絵画コンテストで優秀賞をとり、ディズニーランドに行ってきた児童。

日本から 世界から つながる絆

被災地のために、日本のみならず世界から多くの支援の手が差し伸べられました。
支援の形はそれぞれ違いますが、「被災地のために何か協力したい」という思いは一緒でした。

ユネスコサポーターの支援活動

今回の支援活動に賛同したユネスコサポーターにご協力をいただきました。

東京、大阪、徳島などで 募金活動	募金活動、子どもキャンプで ワークショップ	募金活動、気仙沼の小学校で ワークショップ	被災地へ訪問 子どもたちとの募金活動	被災地の 小・中学校へ訪問
UNESCO スポーツチャンピオン 日本相撲協会 第69代横綱 白鵬関	UNESCO 平和芸術家 バイオリニスト 二村英仁さん	日本ユネスコ協会連盟 スペシャルアドバイザー 雅楽師 東儀秀樹さん	日本ユネスコ協会連盟 世界寺子屋運動広報特使 「まなびゲーター」 フリーアナウンサー 久保純子さん	日本ユネスコ協会連盟 世界遺産活動特別大使「犬」 わさおくん

応援メッセージ

東日本大震災子ども支援募金を立ち上げてまもなく多くの
方からメッセージが寄せられました。

- 汗だくになりながら支援を呼びかけるチラシを配りました。福祉バザーの売上金の一部を寄附します。
- 年金暮らしで、多くの支援はできませんが月1000円を協力させていただきます。
- 寄附と一緒に応援している私たちの声も届けてください。
- 被災されたお子さんたちがひとりでも多く、希望する教育が受けられることを心から願っています。
- 本当に小さな協力ですが、子どもたちの支えとなれば幸いです。

ユネスコ協会

街頭募金の実施など先頭に
立って支援を呼びかけ、震災から1年を機に行われた「3・11
鎮魂と復興の鐘を鳴らそう～
東日本大震災鎮魂と子どもたち
の応援～」では、30のユネス
コ協会が市民に呼びかけ、復興
への願いと祈りを込め鐘を
打ち鳴らしました。



世界から

支援の手は、世界からも届きました。

〈ユネスコ本部から〉



UNESCOのイリーナ・ボコバ事務局長は、震災直後の3月18日に、支援を訴える声明を発表。震災後は2度日本を訪れ、2回目の来日では被災した仙台市立中野小学校を訪問するなど、私たちの支援活動をサポートしてくれました。

〈世界の学校から〉



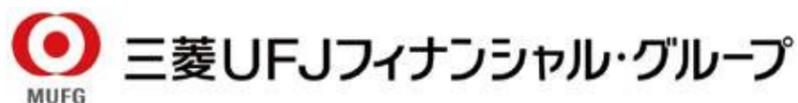
UNESCOは、世界の学校に呼びかけ、「絆 メッセージ・フロム・ザ・ワールド」を実施。64カ国で合計34,649通(2011年11月現在)もの温かいメッセージが届き、仙台ユネスコ協会青年部の協力のもと、日本語に翻訳され被災校に送られました。

〈世界寺子屋運動の支援地から〉



途上国への教育支援活動「世界寺子屋運動」で支援しているインド、ネパール、カンボジア、アフガニスタン、ラオスの関係者からは、いち早くお見舞いメッセージや私たちを励ます映像が届きました。厳しい暮らしの中から募金を寄せてくれたところや、チャリティTシャツ販売を通じて多くの人たちに協力を呼びかけるなど、さまざまな方法で支援してくれました。

日本を支える企業・団体が、 子どもたちの未来も支えている。



MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

奨学金プログラム



東日本大震災により遺児・孤児となった小学生・中学生・高校生を対象として、開始時に一時金として10万円、高校卒業時までの在学期間中に月額2万円の奨学金を給付するプログラムです。

心豊かな成長プログラム(交流・研修)



奨学生との「応援交流会」の開催やMUFG主催のイベントへの招待。日本ユネスコ協会連盟による被災地域の教職員に対する「子どもたちに対する心のケア」をテーマとした研修会等のプログラムです。

花壇再生プログラム



岩手県、宮城県、福島県の被災した小学校・中学校の花壇を再生するプログラムです。

ボランティア活動プログラム



三菱東京UFJ銀行を始めとするMUFGグループ各社の役員による児童・生徒との交流等、学校基点のボランティア活動プログラムです。

企業・団体からご支援

日本ユネスコ協会連盟が進めてきた「学校への支援」、「ユネスコ協会就学支援奨学金」、「学校以外での教育支援」、「文化・お祭りへの支援」は、企業・団体のみなさまからの多大なご支援なしには実現できませんでした。

 あいおいニッセイ同和損保 <small>MS&AD INSURANCE GROUP</small> あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 役員募金	 オリックス米田財団	 花王株式会社	 株式会社紀伊國屋書店
 グッチ	 公立学校共済組合やすらぎの宿 (利用者一同)	 株式会社ジェシービー・インターナショナル	 ジョルジオ アルマーニ ジャパン株式会社
 真如苑	 株式会社 力の源カンパニー	 株式会社トランスコンテナ	 Securing Your Journey to the Cloud トレンドマイクロ株式会社
 南化化成株式会社	 株式会社ニッセン	 Japan Soap and Detergent Association 日本石鹼洗剤工業会	 日本テトラパック株式会社
 日本電信電話株式会社	 パナソニック共栄会	 JR東日本 東日本旅客鉄道株式会社	 株式会社フェリシモ 基金事務局
 ベネッセ募金・ベネッセグループ	 マックスバリュ西日本株式会社	 三井石油株式会社 三井石油株式会社	 この星に、たしかな未来を 三菱重工株式会社 三菱重工株式会社
 三菱商事株式会社	 カシエ	 株式会社ロッテアイス	 ワールド・ビジョン・ジャパン
東日本大震災子ども支援 広報協力 調達支援協力	株式会社アトレ、株式会社シブヤテレビジョン、スペースシャワーTV((株)スペースシャワーネットワーク)、 株式会社タクシーちゃんねる、社団法人日本ケーブルテレビ連盟、福井テレビジョン放送株式会社 株式会社ジェイアール東日本商事		

東日本大震災子ども支援募金事業 会計報告

(2011年3月14日～2012年3月31日)

費目	金額(円)
1.学校への支援(2011年3月14日～2012年3月31日)	
寄付額 (注:2010年度 115,207,551 + 2011年度 109,656,607)	221,864,158
支出額	221,864,158
学校への支援物資・遠足旅費等	188,089,797
事業経費	33,774,361
2.震災遺児孤児への支援(2011年4月1日～2012年3月31日)	
寄付額	1,860,227,948
支出額	441,320,000
奨学金	419,220,000
事業経費	22,100,000
次期繰越	1,418,907,948
育英基金による奨学金は、2014年度まで新一年生を募集し、奨学生が高校を卒業する2026年まで継続されます。次期繰越分は、2026年度までの奨学金事業に使用されます。	
3.経済的困難にある世帯への子どもへの支援(2011年4月1日～2012年3月31日)	
寄付額	649,471,633
支出額	227,311,120
奨学金	203,604,000
事業経費	23,707,120
次期繰越	422,160,513
ユネスコ協会就学支援奨学金は、2012年度まで奨学生の募集を行い、2014年度まで支援を行います。次期繰越分は、2014年度までの奨学金事業に使用されます。	
4.学校以外での教育への支援・文化・お祭りへの支援(2011年4月1日～2012年3月31日)	
寄付額	159,628,313
支出額	123,418,313
支援物資・支援物資調達	119,461,707
事業経費	3,956,606
次期繰越	36,210,000
学校外での教育への支援・文化・お祭りへの支援は、2012年度で終了予定です。本年度は、コミュニティ図書館建設、移動図書館調達、お祭り用具の購入、相撲場備品の購入などが予定されており、次期繰越分はそれらに使用されます。	



子どもたちの明日を
皆さまの力で支えて欲しい

東日本大震災から1年、被災地の学校にも表面上は普通の生活が戻ってきました。
しかし、一方で、家や仕事を失い、経済的に困窮する家庭はまだ多く、
笑顔の中にも将来への不安を抱えている子ども少なくありません。
辛い体験を乗り越えようとする子どもたちが、未来に夢を描けるよう、
私たちは継続的な教育復興支援を続けてまいります。

被災した子どもへの奨学金

私たちは、震災によって遺児・孤児となった子どもたちを支援する「MUFG・ユネスコ協会東日本大震災復興育英基金 奨学金プログラム」、親御さんが経済的に困窮した子どもを支援する「ユネスコ協会就学支援奨学金」。この2つの奨学金事業により、教育支援を継続します。

「復興育英基金 奨学金プログラム」では、2011年度奨学生に加えて、2012年度新小学1年生、並びに昨年度応募できなかったお子様に対して支援を行います。

「就学支援奨学金」は皆さまの募金により運営されます。2011年度奨学生に加えて、可能な限り、新たな自治体でたくさんのお子様を支援します。皆さまのご協力をお願いします。

あなたの募金で、「子どもの学び」を応援してください。

ユネスコ協会就学支援 奨学金

お手続きは簡単です。毎月1,000円からの募金

インターネットから

ユネスコ 検索 
www.unesco.or.jp

お電話で

募金専用ダイヤル ☎03-5424-1124
9:30～17:30 (土・日・祝日休)

注) 本会計報告は、活動の様子をわかりやすくお伝えするためにまとめたもので、監査を受けておりません。学校への支援の報告期間は、2011年3月の支援活動開始時から2012年3月末までで、日本ユネスコ協会連盟の会計年度とは異なります。また、各事業の紹介のページに掲載した支援額は直近の支援状況をお知らせするために、2012年5月末までの成果を掲載しているものがあります。